

平成 29 年度 第 1 回香川県立図書館協議会 議事録

日 時 平成 29 年 7 月 19 日 13 : 30 ~ 15 : 00

場 所 香川県立図書館 研修室

出席者 荒谷委員、池田委員、小川委員、香川委員、笠井委員、清國委員、
藤澤委員、本多委員、渡邊委員

欠 席 山本委員

1. 開会

2. 館長挨拶

3. 議長・副議長選出

4. 議題

(1) 平成 28 年度運営状況について

- ・事務局より平成 28 年度運営状況について説明
- ・承認
- ・質疑については、下記の通り

委 員：現在登録者数は 20 万人ぐらいだが、昨年 1 年間で本を借りた人の割合は、登録者数の何%くらいなのか。

事 務 局：登録者数には住所が変更になった方やお亡くなりになった方も含まれているので、有効な登録者数はわからないが、利用状況が分かるか確認したい。

委 員：次の機会に教えていただきたい。

委 員：郵送貸出についてお聞きしたい。身体障害者の方はどのような形で登録をしているのか。

事 務 局：1 番多いケースは代理の方が来館されて、郵送貸出のカードを作成されている。郵送で手続きをされる場合もある。

委 員：登録数が 63 名というのは、まだまだ少ない。もう少し皆さんにわかるような周知の仕方を考えていただけたらと思う。

- 委員：この63名の登録者数というのは、郵送貸出の登録者数ということで良いのか。
- 事務局：そうだ。障害者の方の数ではなく、郵送貸出という制度で登録した方の人数だ。
- 委員：対面朗読というのは、ボランティアに登録した人が日程を調整して読んでくれているのか。
- 事務局：視覚障害者福祉センターのボランティアの方にご協力をお願いしている。ボランティアの方とご希望の方との日程を合わせて行っている。H27年度に利用された方で申し上げますと、週に1回くらいのペースで利用されていた。
- 委員：ボランティアの方は、何名かいらっしゃるのか。
- 事務局：その時は、2の方が交代で行っていた。
- 委員：昨年度行われたイベント等のプレスリリース・情報発信は、何回くらい、どういった媒体を使って行ったのか。
- 事務局：そういった統計をとっていないので、具体的な数字を申し上げることができないので申し訳ないが、プレスリリースはできるだけ小さなイベントでも周知するように努めた。ただ、他県の状況をみると新聞・テレビなどで取り上げというのは少ないように感じる。一度統計を取って、次回には示したい。
- 委員：近頃、若い方の活字離れを耳にする。ブックハンティングは高校生を対象としているが、ビブリオバトルのように子どもたちが本に興味を持つようなことを県立図書館で行っているのか。
- 事務局：ビブリオバトルは昨年、生涯学習・文化財課と高等学校が一緒になって第1回を開催した。今年も秋に2回目を開催する予定になっている。主催は違うが、県として昨年から取り組み始めた。
- 委員：図書館向けのレファレンス協同データベースへの事例登録は、とても役に立つので、是非PRを行っていただきたい。GoogleやYahoo!で調べたい言葉を検索すると、検索結果の1番上に香川県立図書館のデータベースが表示される。一般の方も利用できるデータベースになっていると思う。実績もあるのでPRをしてほしい。

(2) 平成29年度予算・事業計画について

- ・事務局より平成29年度予算・事業計画について説明
- ・承認
- ・質疑については、下記の通り

- 委員：県の内部の連携を取っていることは評価できる。環境分野だけでなく教育委員会やそれ以外の部署でも啓発したいことはたくさんあるだろう。場合によっては展示等の充実をもっとできるのではないか。見通しや実績を教えてほしい。
- 事務局：ここ数年、行政との連携は意識してきた。いろんな分野・部署で県民の皆さんに啓発したいことはたくさんあると思う。ただ展示コーナーや展示できる期間は限られているので、すべてを受け入れられるわけではない。継続してやっている分野もあれば、新しいことで声をかけていただくものもある。もっと定着し、知っていただく機会が増えればアプローチもあるのではないか。
- 委員：ボランティアの方を対象にした著作権の勉強会を、以前県立図書館で行っていただいたことがある。今後そういった勉強会をしていただければありがたい。
- 事務局：市・町の図書館からも著作権に関して問い合わせがある。
- 委員：差別用語や不適切な表現が気になることがある。著作権と合わせて勉強会をしていただけたら助かる。
- 事務局：表現については難しい問題もある。こちらも勉強させてもらいたい。
- 委員：本より図鑑が好きということがある。自然のなかで図鑑を見ながら一つずつ教えたらと言ってみたら、すごく興味がわいたということがあった。図書館でも自然の木がたくさんあるので、秋の紅葉やどんぐりなどで図鑑を利用する方法を考えてほしい。
- 事務局：図書館の木々も育って、それを直接見てもらうことも方法としてはある。去年、環境政策課と共催した「鎮守の森の魅力」をテーマにした自由研究の相談会などがおっしゃられたことにつながると思う。今年も「親子環境学習講座」をするので、担当者と相談したい。
- 委員：幼稚園や保育所の見学があるときに図鑑を利用してほしい。
- 事務局：そういうことを指導する人が必要となる。図書館の職員ではなかなか対応できない。専門家がいないと難しい面がある。
- 委員：県立図書館は、赤ちゃんを対象にしたおはなし会はあるのか。
- 事務局：乳児から5歳くらいまでの子供を対象とした、こうさぎおはなし会を行っている。
- 委員：さぬき市は、0カ月から1歳を対象にしたおはなし会を行っている。赤ちゃんの頃から本をお母さんと一緒に聴かせないと本から離れてしまうと言われている。県立でも赤ちゃんを対象にしたおはなし会を行っていただけたらと思う。お母さんも癒されるし、赤ちゃんからの

おはなし会は絵本に入る第一歩である。

委員：おっしゃることは、よくわかる。ただ、県が全てを行うということにはおそろくならないと思う。県立図書館と市町村立図書館の役割を整理しながら進めていくことが大事だと思う。

委員：香川県は、犬・猫の殺処分が非常に多い。ミニ展示等で殺処分数を減らす啓発活動のようなことはできないか。

事務局：9月の動物愛護週間に何かできないかというようなことは考えている。

委員：小学校向けの木守文庫は、大変助かっている。年に1回、県の先生方が集まった際、木守文庫の宣伝をしていただいたおかげで知ることができた。今後は、中学校向けの木守文庫も整備してくださるということで、助かると思っている。しかし先生方には、あまり知られていない。中学校はどのように広報活動されるのか。

事務局：香川県中学校教育研究会を通じてPRさせていただいたり、教育委員会の掲示板にも掲載する予定である。中学校版の学校支援文庫がスタートする際には、あらためて各学校に通知を差し上げようと思っている。

委員：平成28年度の実績報告の中で、香川県立図書館の蔵書冊数が100万冊を超えたとある。そのような中で予算が減少している。来年度は予算の復活を要望してほしい。そして100万冊の資料を活用する為には、本の事をよく知った職員が必要である。新規に職員を雇用する予定はあるのか。

事務局：司書の採用については、今年も試験を行い第1次が終わった。1名採用できればと思っている。

(3) その他

1) 図書館評価について

- ・事務局より図書館評価について説明
- ・承認

2) 図書館情報システムの更新について

- ・事務局より図書館情報システムの更新について説明
- ・承認

- 3) 開館時間延長の試行について
 - ・事務局より図書館情報システムの更新について説明
 - ・承認

- 4) 学校史等の図書の切り取りについて
 - ・事務局より学校史等の図書の切り取りについて説明
 - ・承認

- ・質疑については、下記の通り

委員：学校史の図書の切り取り事件発覚前までの防犯対策、事件発覚後どのように改善・対策が講じられたのか。今回の事件を分析検証してどのような結果になったのか。

事務局：利用者に対して資料を大切に扱ってほしいと注意喚起を館内に掲示したり HP に掲載した。切り取りがあった図書に関しては、閉架書庫に移し、一般の方の目には触れないような処置を行った。見回りの強化については、カウンター業務を委託している委託先の業者に見回りの回数を増やしてもらったが、我々職員も、閲覧室を定期的に見回るので、必ず記念誌等が配架されている場所を確認するようにしている。記念誌はほとんど寄贈でいただくものなので、市販されていない。補充ができないか該当の学校に連絡をし、補充できるものは補充した。今回は学校史ということで話題になったが、様々な資料の切り取りが確認されている。返却されたものをくまなく確認することは難しいが、可能な限り破損等がないか、確認をするような対応しか今のところは講じられないのではないかと考えている。図書館の広報誌にも啓発の記事を掲載したが、今後も様々な方法で利用者の方に呼びかけを続けていきたいと考えている。

委員：今回は館内にハサミやカッターを持ち込んで切り取られたようだが、持込等に関する対策は行うのか。

事務局：利用者の方の中には、自分で持ち込んだ新聞や雑誌を閲覧室で切り取って作業をされている方もいる。今のところ金属探知機のようなものは無いので、見回りの際注意をしていかざるを得ないような状況だ。特にこの件を受けて、持込を禁止したりといった対応は行っていない。利用者のマナーにゆだねるしかないと考えている。

5. 閉会